

槇尾中学校区

今後の教育環境について

平成30年2月 No.2

1月16～18日に第1回の意見交換会が行われました。当日の様子については、既に回覧や和泉市HPへの掲載等を通して情報の発信を始めています。

今回は、「第1回意見交換会での主な意見」と「南松尾はつが野学園の施設見学会」の様子、「第2回意見交換会での資料」についてお知らせします。

第1回意見交換会での主な意見等

- この場は、小中一貫校の構想を整理する場ではなく、今後の検討に際し必要な情報共有を図る場であり、今後の全体説明会や市の整理すべき資料に対する意見が中心となる。
- 地域への情報提供については、地域の人が知らない形にならないよう、その提供が遅くならない取組みを進めるべき。
- 小中一貫校は有意義な手段のひとつであるが、その方針は未定とのことで、本格的な議論は、4月以降になると考えることを確認した。
- 仮に、施設一体型の小中一貫校を建てる場合、建設場所については、槇尾中学校に限定せず、検討を行うべき。
- 小中一貫校とした場合における児童・生徒数の見込みを示して欲しい。
- 小中一貫校で複数クラスを確保する方策を示して欲しい。
- 施設一体型小中一貫校の課題も示して欲しい。
- 南松尾小中学校の移転統合決定までの経緯を示して欲しい。



- 槇尾中学校区各校の児童生徒数の推移や国・府の動向、小規模校のメリット・デメリット、南松尾はつが野学園の様子等の情報提供が中心となりました。
- また、次回知りたい情報についても意見をいただきましたので、第2回意見交換会にて情報提供させていただきます。（裏面へ）

南松尾はつが野学園施設見学会

2月4日（日）に南松尾はつが野学園の施設見学会を行いました。
午前に横山小学校区関係者、午後に南横山小学校区関係者の2部制で合計30名の方が参加されました。



普通教室の他、図書室や体育館、プールなど施設の大部分を見学していただきました。当日は、非常に寒い日でしたが、和泉の木材を取り入れた図書室や玄関ホールでは「温かみがあっていいですね。」といったお声も聞かれました。

第2回意見交換会

2月13～15日に第2回目の意見交換会を行いました。
今回は、以下の内容について情報を提供しました。

【情報提供の内容】

- 南松尾小・中学校移転統合の経過
 - 他市事例(小中一貫校の様子)
 - 南松尾はつが野学園補足説明
 - 施設一体型小中一貫校とする場合に想定される教育環境のイメージ
- ※次ページ以降が当日の資料です。

◎意見交換会の内容は和泉市教育委員会のホームページにも掲載しています。

今後の予定

- ◎3月にも第3回意見交換会を開催する予定です。
- ◎4月以降については、地域の方々とも相談しながら決定します。

榎尾中学校区

学校適正配置に関する 意見交換会（第2回）



本日の予定

○前回の意見等について

○情報提供

- ①南松尾小・中学校移転統合の経過
- ②他市事例（小中一貫校の様子）
- ③南松尾はつが野学園補足説明
- ④施設一体型小中一貫校とする場合に想定される
教育環境のイメージ

○質疑・意見交換

前回の意見等について

意見・確認関連

この場は、小中一貫校の構想を整理する場ではなく、情報共有を図る場であり、今後の全体説明会や市の整理すべき資料に対する意見が中心となる。

地域への情報提供については、地域の人が知らない形にならないよう、その提供が遅くならない取組みを進めるべき。

意見・確認関連

小中一貫校は有意義な手段のひとつであるが、その方針は未定とのことで、本格的な議論は、4月以降になると考えることを確認した。

仮に、施設一体型の小中一貫校を建てる場合、建設場所については、榎尾中学校に限定せず、検討を行うべき。

資料提供依頼

小中一貫校とした場合における児童・生徒数の見込みを示して欲しい。

小中一貫で複数クラスを確保する方策を示して欲しい。

施設一体型小中一貫校の課題も示して欲しい。

南松尾小中学校の移転統合決定までの経緯を示して欲しい。

①南松尾小・中学校移転統合の経過

①南松尾小・中学校移転統合の経過

H23年

当時の児童生徒数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
南松尾小	16	19	22	31	15	23	126
南松尾中	22	29	30	-	-	-	81

⇒ 児童・生徒数の状況から「南松尾の今後のあり方を考える会」が発足
当時は、校区再編・統廃合には反対

(参考)平成29年度榎尾中学校区 児童生徒数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
横山小	27	22	36	28	40	19	172
南横山小	19	21	19	8	15	12	94
小学校計	46	43	55	36	55	31	266
榎尾中	43	62	53	-	-	-	158

①南松尾小・中学校移転統合の経過

H24年

青葉はつが野小において、児童数が974人。(現在1,297人)

- ・ 予想以上の児童発生率
- ・ 文科省35人学級構想(未実現)の発表
- ・ 市での小中一貫教育の推進
- ・ 更なる住宅供給

⇒ 南松尾小中学校の課題とは、別に
小中一貫校(現南松尾はつが野学園)の建設が決定

⇒ 翌 H25年、その旨を南松尾小中PTAへ報告

①南松尾小・中学校移転統合の経過

H26年9月

- ・研究の結果、はつが野地区に建設が決定されている小中一貫校に南松尾小中学校が移転統合することが望ましいとの考えを提案
- ・提案に基づき、説明会を開催、意向調査アンケートの実施。
- ・対象は在校生及び未就学の保護者

A案	小中とも現状維持	13.6%
B案	中のみ移転統合	19.0%
C案	小中とも移転統合	54.4%
その他		13.0%

※「その他」は、「学園名に『南松尾』を残すことが条件」などの条件付賛成が多く見られた

①南松尾小・中学校移転統合の経過

H27年3月

- ・市から提案の約半年後、アンケート調査結果も踏まえ、
移転統合することについて、適正就学対策審議会へ諮問

H27年9月

- ・約半年間の議論を経て、
適正就学対策審議会にて答申 ⇒ 移転統合方針が決定

H28年6月

- ・和泉市議会第2回定例会に条例改正案提出
「義務教育学校」として設置決定

①南松尾小・中学校移転統合の経過

H27・28年

方針決定後の取り組み

○開校までの準備計画

○各検討事項

- ・校名決定
- ・制服デザイン
- ・PTA編制
- ・校章デザイン
- ・スクールバスの調整 等



関係校区のPTA関係者や地域の方々が協議をしながら、開校までの期間に決定手続きを進めた。

①南松尾小・中学校移転統合の経過

H27・28・29・30年

方針決定後の取り組み

○跡地利用の調整(町会等を中心に調整)

- ・小学校 ⇒ プール、体育館は除却。(H29完了)
校舎は、
老人集会所、文化財収蔵庫として活用
(H30工事予定)
- ・中学校 ⇒ 校舎等すべて除却(H29完了)

①南松尾小・中学校移転統合の経過

今回についても

○小中一貫校を必要とするかしないかを調整
(幹となる方針部分は、同時に整理必要)



方向性がみえれば、審議会等の手続きを進め、



○決定後、建設準備と併行して詳細は、つめていきたい
※方針決定後は、4～5年要するので、その期間で調整

②他市事例

②他市事例

○大阪府内における施設一体型小・中学校(園)の状況

大阪府内の状況(平成29年5月1日現在)では、

12校の施設一体型小中一貫校、

2校の義務教育学校が設置されています。



- ・多くの市町村が南松尾はつが野学園へ視察に訪れており、設置の検討が進められている。
- ・設置数も増える予定

②他市事例

義務教育学校

守口市 さつき学園 H28年開校



和泉市 南松尾はつが野学園 H29年開校



②他市事例

特認制度のある施設一体型小・中学校

箕面市 とどろみの森学園 H20年開校
(止々呂美小、止々呂美中)



池田市 ほそごう学園 H27年開校
(細郷小、細郷中)



②他市事例

施設一体型小・中学校(園)

箕面市	彩都の丘学園(彩都の丘小、彩都の丘中)	H23年
能勢町	能勢ささゆり学園(能勢小、能勢中)	H28年
八尾市	高安小学校、高安中学校	H28年
羽曳野市	羽曳野中学校、植生小学校	H26年
大阪市	やたなか小中一貫校(矢田南中、矢田小)	H24年
大阪市	いまみや小中一貫校(今宮中、新今宮小)	H27年
大阪市	むくのき学園(中島中、啓発小)	H26年
大阪市	日本橋小中一貫校(日本橋中、浪速小)	H29年
堺市	さつき野学園(さつき野中・さつき野小)	H24年
堺市	大泉学園(大泉小・大泉中)	H25年

今後も多くの建設が予定されています。

②他市事例

能勢ささゆり学園(能勢小、能勢中) H28 能勢町

○ 統合の経緯

平成21年「能勢町学校再編整備に関する基本方針」策定

- ・町内の少子化対策
- ・町の魅力づくり
- ・クラス替えができる規模にするため
- ・学校施設の耐震対策やユニバーサルデザインを取り入れた望ましい教育環境



→ 方針: 学校規模を学級替えができる規模 「小学校1校」「中学校1校」へ



平成27年度 2小学校を統合

平成28年度 全ての小中学校(小5校、中2校)をひとつに統合

②他市事例

能勢ささゆり学園(能勢小、能勢中) H28 能勢町

○児童生徒数

小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	H28
児童数	51	48	58	53	72	55	337	344
学級数	2	2	2	2	2	2	12	12

中学校	1年	2年	3年	計	H28
生徒数	63	68	69	200	237
学級数	2	2	2	6	6

○スクールバス

・スクールバス10台運用

- 小学生3km以上 中学校6km以上
- 登校1便 下校3便
- 土日、休業中のクラブ対応 登校2便 下校2便



②他市事例

ほそごう学園（細郷小、細郷中）H27 池田市

○ 統合の経緯

- ・細河小学校、伏尾台小学校の小規模化により各校とも各学年が単学級の状況となる。
- ・平成23年から池田市全体で小中一貫教育がスタート
→小中一貫教育のリーディング校として。
- ・平成30年度から義務教育学校へ



②他市事例

ほそごう学園（細郷小、細郷中）H27 池田市

○特認校制度

「平成27年4月に施設一体型小中一貫校として開校し、9年間を見据えた特色ある教育活動を実施しています。

平成29年度より、そのような教育環境の中で、子どもを学ばせたい、学びたいという場合に、一定の条件のもとで市内の他の校区から就学できる・・・」

- ・ 平成29年度より導入（平成29年度5名入学、平成30年度9名入学予定）
- ・ 小学1年生から中学3年生 各学年若干名募集
- ・ 児童生徒が原則として公共交通機関を利用し、通学
- ・ 原則として中学校卒業までの間、通学

②他市事例

ほそごう学園（細郷小、細郷中） H27 池田市

○児童生徒数

	H27	H28	H29
児童	376	357	306
生徒数	208	194	177
計	584	551	483



○バス通学について

- ・路線バス利用 → 特認による通学者がいるが、補助等は無し
- ・スクールバス → 統廃合で無くなった学校区の児童生徒の一部を対象として
 - 無料
 - 大型バス2台、マイクロバス2台を導入（委託契約）

②他市事例

ほそごう学園（細郷小、細郷中）H27 池田市

○跡地利用

- ・ 旧細河小学校
→ 校舎を除去後、駐車場・イベントスペースとして活用
- ・ 旧伏尾台小学校
→ NPOによるフリースクール
(不登校・発達障害に悩む児童生徒のサポート)

※今後については、検討中

②他市事例

既に開校している学校でのアンケート調査結果

①開校後の状況 **成果面**

- ・中1ギャップの解消
→進学による新規不登校生が0になった
- ・児童生徒数が増え、クラス替えができたことにより
人間関係の固定化の解消が図られた
- ・異校種の教員が日頃から意見を交わし、研修も共にすることで児童生徒理解など資質向上が図られている
→きめ細やかな指導ができている
- ・学校行事の活性化が見られ、活気が出ている

②他市事例

既に開校している学校でのアンケート調査結果

②開校後の状況 **課題面**

- ・6年生のリーダーシップの維持
- ・小中での打ち合わせの時間の確保に工夫が必要
- ・特別教室や体育館、プールなどの割り当てや各行事の調整
- ・授業時間の違いによるチャイム設定や中学校の定期テストなどの際の小学校の配慮が必要
- ・小中の生活指導上のルールの違いによる指導の難しさ

②他市事例

既に開校している学校でのアンケート調査結果

③跡地利用について

- ・検討中で未使用
- ・公園等の転用予定
- ・学校の第2運動場として活用

※他府県では

- ・売却処分
- ・自然体験学習やキャンプなどができる施設としての活用もみられる

③南松尾はつが野学園補足説明

〈前回の質問について〉

③南松尾はつが野学園補足説明

南松尾はつが野学園の今後の児童生徒数・規模の見通し

- ・はつが野地区においては、約1,200戸の住宅供給予定
- ・青葉はつが野小での発生率を参考にすると、約1,800人の児童・生徒となることが予測される
- ・南松尾はつが野学園の教室は、約1,000人対応



どのような年齢構成になるかは、入居者の状況によることから、また、入居がこれからなので、今後の動向は不明であるが、不足教室が発生する可能性は十分にある。

③南松尾はつが野学園補足説明

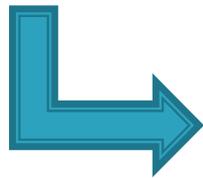
現状での課題

- たてわり活動(異学年交流)の中で、どのようにして6年生のリーダーシップを発揮させるか
- はつが野地区には、まだ各自治組織がなく、町の形がまだできていない
→ 地域と一体となった学校づくりは、これから
- 開校初年度でもあり、会議・打ち合わせが多くなる等、教員の多忙感がある
- 新しく入ってくる教職員が、初めての環境にスムーズに馴染めるかどうか

④施設一体型小中一貫校とする場合に 想定される教育環境のイメージ

施設一体型小中一貫校とすることで

9年間の系統的な指導や多様な異学年交流などを通して、
中1ギャップの改善や社会性の醸成など、一体型を活かした
教育が期待される



充実した教育環境により、「教育コミュニティ」
として、地域の活性化を図ることができる。

※人口流出、人口減少といった部分にも寄与されることも期待

より充実した教育環境をめざして

- ⇒ 地域だけで小中一貫校を導入することも選択肢の1つだが、
1学年2クラスを確保したい
- ⇒ 小中一貫特認校として設置することが手段として考えられる

※平成29年度現在、大阪府では2市（池田市、箕面市）で設置

より充実した教育環境をめざして

特認とし、2クラス確保することで



- ・切磋琢磨する場面
- ・集団活動の充実
- ・複数教員による学年指導
- ・クラス替えが可能

より充実した教育環境

また、特認後のイメージを1学年41～50人規模、
1学年2クラス 1クラス25人程度とし、少人数のよさも確保

1学年2クラスを確保するために必要な特認の児童生徒数

※1、2年生は36人で2クラスとなるが、3年生時を見通して41人で設定

H35	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	中1	中2	中3	小計	総計
地元	14	19	28	26	26	31	144	29	31	43	103	247
特認	27	22	13	15	15	10	102	12	10	0	22	124
計	41	41	41	41	41	41	246	41	41	43	125	371

H45	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	中1	中2	中3	小計	総計
地元	18	18	18	18	18	18	108	18	18	18	54	162
特認	23	23	23	23	23	23	138	23	23	23	69	207
計	41	41	41	41	41	41	246	41	41	41	123	369

充実した教育環境 特色・魅力ある学校として

- 地域とともにある学校（地域協働）
- 特色ある教育課程、活動
- 設備面の充実

⇒ これらにより特認を確保

地域とともにある学校（地域協働）

地域との協働による学校教育

地域交流の継承・充実

地域施設・教育資源の活用

特色ある教育課程、活動

独自の教科や学習活動の創設

各教科・学習指導モデル校

他校にはない部活動

設備面の充実

ICT環境の整備

多様な授業・用途に対応した施設・設備

多用途対応の学校

次回について

情報提供内容の予定

○充実した教育環境、特色・魅力ある学校づくり紹介

○跡地利用に関する事例紹介

○想定スケジュール 4月以降の予定について